

製品名: CPM ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09319**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	CPM
別名	CPM; Carboxypeptidase M; CPM
遺伝子 ID	1368.0
SwissProt ID	P14384
免疫原	抗血清はヒト CPM 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 71-120

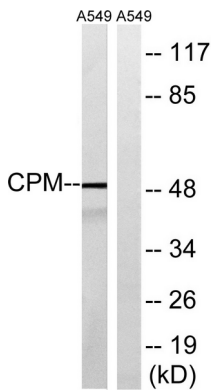
背景

カルボキシペプチダーゼ M(CPM) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は、膜結合型のアルギニン/リジンカルボキシペプチダーゼである。その発現は単球からマクロファージへの分化と関連している。このタンパク質は、アミノ末端およびカ

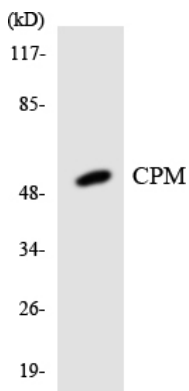
ルボキシ末端に疎水性領域を含み、6つのアスパラギン結合型グリコシル化部位を有する。カルボキシペプチダーゼ A および B の活性部位残基はこのタンパク質において保存されている。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする3つの選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが記載されている。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ポリペプチドのC末端アルギニンまたはリジン残基の切断。補因子: サブユニットあたり1個の亜鉛イオンに結合する。酵素調節: O-フェナントロリンおよび MGTA によって阻害され、コバルトによって活性化される。機能: ペプチドおよびタンパク質からC末端塩基性残基 (アルギニンまたはリジン) を特異的に除去する。細胞表面におけるペプチドホルモンおよび成長因子の活性制御、ならびに細胞外タンパク質の膜局在性分解において重要な役割を果たすと考えられている。類似性: ペプチダーゼ M14 ファミリーに属する。 ,

研究分野

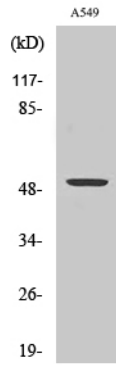
画像データ



CPM 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CPM 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CPM ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析